

2019年11月15日 東京新聞、しんぶん赤旗

憲法、憲法審査会、桜を見る会、政局、香港、トランプ、大嘗祭

しんぶん赤旗 2019年11月15日(金)

安倍改憲発議 止める 新宿で署名・宣伝 「退陣に追い込む」



(写真)「平和な

日本を守りたい」と署名する女性＝14日、東京・新宿駅前「総がかり行動実行委員会」と「安倍9条改憲NO！全国市民アクション」は14日、安倍政権のもとでの改憲発議を必ずとめようと、東京・新宿駅前です署名・宣伝行動を展開しました。「憲法共同センター」「戦争をさせない1000人委員会」「憲法9条を壊すな！実行委員会」のメンバーが、スピーチや紙芝居などで安倍改憲に反対する「3000万人署名」への協力を訴えました。

全労連の小田川義和議長は、安倍晋三首相による「桜を見る会」私物化疑惑を批判。「みんなの力で改憲を止め、安倍政権を退陣に追い込もう」と訴えました。

全日本民医連の木下興事務局次長は、「憲法改悪を狙い、社会保障改悪を進める安倍政権の政治では、国民の命、暮らし、平和は守れません」と述べました。

都内在住の女性(28)＝会社員＝は「平和な日本であり続けてほしいと強く願っています」とペンをとり、東京都中野区の男性(62)＝建築労働者＝は「安倍首相の税金の使い方がおかしい。勉強するにも、病院に行くにもお金の心配をしないで済むようにするのが政治の責任だ」と署名しました。

野党「表現の自由」に焦点 補助金不交付巡り衆院憲法審で提起

東京新聞 2019年11月15日 朝刊

衆院憲法審査会は十四日、今国会二回目の自由討議を行った。複数の野党委員が「あいちトリエンナーレ2019」の文化庁の補助金不交付決定を念頭に、表現の自由と政府の関与を巡る問題の議論を求めた。

本村伸子氏(共産)は、補助金不交付について「表現の自由への政治介入。憲法に関わる重大問題だ」と指摘。首相主催の「桜を見る会」に安倍晋三首相が自らの後援者を多数招いていた問題に関しては、首相の説明が不十分だとして、表現の自由を支える「国民の知る権利」に応えるよう求めた。山花郁夫氏(立憲民主)も「表現の自由について審査すべきではないか」

と主張した。

憲法二一条が保障する表現の自由と行政の関与を巡っては、補助金不交付の他にも、川崎市が共催する映画祭で従軍慰安婦問題を扱った映画上映に懸念を示し、三重県伊勢市が市の美術展で慰安婦像を素材とした作品の展示を中止するなど、問題が相次いでいる。

与党側では、新藤義孝氏(自民)が党改憲四項目の一つの緊急事態条項の導入を例に挙げ「憲法に必要なものは何かを議論しなければいけない」と語った。

審査会の終了後、野党筆頭幹事の山花氏は今後も自由討議を継続する可能性を指摘。自公両党などは改憲の是非を問う国民投票の環境充実を図る国民投票法改正案を、十二月九日の今国会会期末までに成立させることを目指したが、審議入りのめどは立っていない。自民党幹部は成立を「欲張らない」と語り、事実上見送る考えを示している。(大杉はるか)

しんぶん赤旗 2019年11月15日(金)

欧州視察報告で討論 衆院憲法審 本村議員が発言

衆院憲法審査会は14日、前回(7日)に引き続き欧州視察報告を受けての自由討議を行いました。



(写真) 発言する本村伸子議員＝14日、衆院

憲法審

日本共産党の本村伸子議員は、欧州視察団の団員が報告で「憲法の体系を崩すことがないように十分注意すべき」だと述べたことが印象的だったとした上で、「侵略戦争の反省に立った憲法9条の非軍事平和主義こそ日本国憲法の体系の根幹だ。この体系を崩してはならない」と強調しました。

その上で、「あいちトリエンナーレ『表現の不自由展・その後』への政治介入や、政府の公的行事である「桜を見る会」の安倍晋三首相の私物化問題で招待者名簿を「廃棄した」ことなどで、憲法21条で保障された「表現の自由」や「知る権利」が脅かされていると指摘。「民主主義、国民主権の土台を崩すものだ」と厳しく批判し、憲法を踏みにじっている現状について予算委員会で「徹底した議論が必要だ」と主張しました。

立憲民主党の辻元清美議員は、ドイツ基本法(憲法に相当)には“自分たちが作り上げてきた基本法”という共通認識があるとの視察団報告に言及。一方、日本では安倍首相が現行憲法を「占領中にできた憲法」「日本人に悪い影響を及ぼしている」などと言うもとの、改憲議論の土台としての共通認識はないと強調しました。

しんぶん赤旗 2019年11月15日(金)

「桜を見る会」三つの疑惑 志位委員長が会見 予算委集中審議の速やかな開催を

日本共産党の志位和夫委員長は14日、国会内で記者会見し、首相主催の「桜を見る会」に安倍晋三首相が地元後援会を招待していた問題をめぐり、安倍首相が来年度は中止すると発表したことに触れ「これで幕引きには絶対にならない」と強調し、真相究明のため衆参両院での首相出席の予算委員会集中審議の速やかな開催を求めました。



(写真) 記者会見する志位和夫委員長=14日、国会内

志位氏は「疑惑はふくらむ一方だ」と述べ、3点の疑惑を指摘しました。

第一は、「桜を見る会」を安倍後援会が私物化し、国民の血税を使って買収を行っていた疑惑です。

第二は、1人あたり5000円の会費を取り850人規模で開催した「前夜祭」の収支が、安倍氏の関連政治団体の収支報告書に記載されていない問題です。

第三は、首相の虚偽答弁の問題です。官邸内の「推薦枠」があったにもかかわらず、また安倍後援会が招待者の取りまとめを行っていたにもかかわらず、「招待者のとりまとめに関与していない」（8日、参院予算委）と述べたのは、明らかな虚偽答弁です。

志位氏は「この三つの問題は、どれも安倍首相でなければ答えることのできない問題です。とくに虚偽答弁は深刻な問題です。首相が国会で疑惑をただされたらウソで切り抜けることが堂々とまかり通ったら、まともな国会審議ができなくなる。ですから首相が出席した予算委員会の開催がどうしても必要です」と強調しました。

さらに志位氏は「首相が説明を拒否した場合や説明できなかった場合には辞めていただくしかない。このことを野党で共同して強く求めていきたい」と述べました。

歴代最長となる安倍政権の体質について問われた志位氏は「ありとあらゆる『公』のものを私物化してきた政権だ」と指摘。「『森友・加計疑惑』では文科行政を私物化し、安保法制強行では憲法解釈を私物化し、ついに今回の『桜を見る会』の私物化となった。この政権が続くことは日本の民主主義にとって一刻も認めるわけにはいかない。野党が結束して安倍政権に対峙（たいじ）し、打倒に追い込んでいきたい」と語りました。

長期政権 緩む規範意識 桜を見る会、来年中止

東京新聞 2019年11月15日 朝刊

安倍晋三首相が来年度の「桜を見る会」の中止を決めたことに対し、野党は十四日、私物化を認めたに等しいとして追及を強める姿勢を示した。地元支持者の大量招待はこれまで批判

されてきた首相の「身内」優遇と重なることから、野党は政権の体質に追及の照準を定める。（清水俊介）

「身内」優遇が指摘された主な問題	
 <p>森友学園問題</p>	財務省が2016年、森友学園に大阪府の国有地を約8億円値引きして売却。開校予定だった小学校の名誉校長を安倍首相の妻昭恵氏が一時務め、値引きの背景に昭恵氏の関与や官僚の付度（そんたく）が疑われた
 <p>加計学園問題</p>	愛媛県今治市が国家戦略特区制度で誘致し、52年ぶりとなる獣医学部を加計学園が18年に開学した。加計孝太郎理事長が首相の「腹心の友」だったことから首相の意向が動いたとの疑惑が浮上した
 <p>桜を見る会「私物化」</p>	首相の後援会関係者が多数招待されていた可能性が国会で指摘された。招待基準が不明確な上、首相をはじめ与党議員に招待客の推薦枠が割り当てられていることも判明。公的行事の私物化との批判を招いた

「安倍政権は公のものを私物化してきた。今度の問題はその最たるものだ。首相が先頭に立ってモラルを破壊している」。共産党の志位和夫委員長は記者会見で、桜を見る会を巡る問題は安倍政権の体質を象徴するとの認識を示した。

立憲民主、国民民主、共産、社民の野党四党は、桜を見る会の調査にあたる議員の数を増やし、態勢を強化することを確認。全所属議員に参加を呼びかけた。立民の安住淳国対委員長は「来年の通常国会に向けて徹底的にやっていく」と記者団に強調した。政権の長期化による規範意識の緩みも追及の的になる。

桜を見る会は、各界の功労者を慰労するはずの行事だ。今年の来場者約一万八千人のうち、首相の地元後援会関係者は約八百五十人に上った可能性が高い。来場者の二十人に一人にあたる計算となり、首相の支持者優遇は突出している。

「お友達」優遇は今に始まった話ではない。森友学園問題では、首相の妻昭恵氏が名誉校長を務めていたことから、行政がねじ曲げられたとの疑念が解消されていない。加計学園問題を巡っては、首相の親友が理事長を務める学校法人が優遇を受け、行政手続きがゆがめられたと指摘される。

今回、桜を見る会の私物化問題で、行政の公平性に対する意識の低さに苦言を呈する声が自民党内でも再び上がった。石破茂元幹事長は石破派の会合で「やめればそれでいいという話ではない。より公正に、ということを心がけていかなければならない」と語った。

しんぶん赤旗 2019年11月15日(金)

疑惑にフタ 許されない 野党追及チーム 「本部」に格上げ



(写真) 野党国会

対策委員長連絡会=14日、国会内

安倍晋三首相が来年の「桜を見る会」の中止を表明したことを受け、日本共産党と、立憲民主党、国民民主党などの共同会

派は14日、緊急の野党国対連絡会を行いました。野党は「中止表明で疑惑にフタは許されない」として、安倍首相主催の「桜を見る会」私物化疑惑の真相究明のための追及チームを「追及本部」（仮称）に格上げし野党の総力をあげることを決めました。また、衆参両院の予算委員会での集中審議を改めて与党に強く求めていくことを確認しました。

立憲民主党の安住淳国対委員長は「総理に対する疑惑がますます深まった。『中止』で収束させようとしているが、徹底して追及する。総理の事務所、または総理本人でなければ答えられないことが多数出てくるのは明らかだ。改めて衆参両院での予算委員会の集中審議を強く求めていきたい」と強調しました。

安住氏は、首相主催「桜を見る会」追及チームの活動をさらにバージョンアップし、全野党議員へ参加を募り追及本部（仮称）を設置することを全野党の国対委員長が確認したと表明。山口県下関市の地元後援会の問題、ホテルでの「前夜祭」の問題、各省庁の招待者の推薦名簿の問題など、「それぞれキャップを決めて、野党が総力をあげて調査を行う」と述べました。

しんぶん赤旗 2019年11月15日(金)

名簿破棄 追及逃れか 野党合同ヒアリング



(写真)「桜を見る会追及チーム」によるヒアリングで発言する宮本徹衆院議員（正面右から3人目）＝14日、国会内

によるヒアリングで発言する宮本徹衆院議員（正面右から3人目）＝14日、国会内

日本共産党、立憲民主党など野党は14日、国会内で「桜を見る会」の安倍晋三首相による私物化疑惑をめぐる合同ヒアリングを行いました。ヒアリングでは、日本共産党の宮本徹衆院議員が同問題を国会でたすために内閣府・内閣官房に資料要求をした5月9日に、内閣府が招待者名簿を破棄していたことが明らかになりました。

野党はこの間、内閣府に対し招待者名簿を明らかにするよう要求。内閣府は、個人情報保護などを理由に「保存期間1年未満の文書」であるため、会が催された後、「遅滞なく」廃棄したとしています。今年の「桜を見る会」は4月13日に東京・新宿御苑で開かれました。

同日の合同ヒアリングで内閣府は、「遅滞なく廃棄した」としつつも、その廃棄の期日が「桜を見る会」から約1カ月後の5月9日だったことを明らかにしました。

宮本議員は5月13日に、この問題を初めて衆院決算行政監視委員会で追及。「桜を見る会」の参加者・経費が急増している問題をただしていました。

宮本氏がこの質問の準備のために内閣府に「桜を見る会」の

招待者の選考基準や参加者が増加する理由などの資料を要求したのは5月9日。内閣府が招待者名簿を廃棄した日と同じでした。

宮本氏からの追及を逃れるために名簿を廃棄したのではないかと新たな疑惑が浮上しています。

しんぶん赤旗 2019年11月15日(金)

「桜を見る会」疑惑 国会で追及 首相、重大な虚偽答弁 参院内閣委 田村議員が強調



(写真) 質問する田村智子議員＝14日、参院内閣委

日本共産党の田村智子議員は14日の参院内閣委員会で、首相主催の「桜を見る会」をめぐる追及を受けて、安倍晋三首相が参院予算委員会（8日）で重大な虚偽答弁をしていた疑いを追及しました。

田村氏の予算委での追及に対し、安倍首相は「私は主催者としてあいさつや招待者の接遇は行うが、招待者の取りまとめなどには関与していない」と答弁していました。

田村氏は、菅義偉官房長官が13日の記者会見で桜を見る会の招待者に「首相推薦枠」があったことを認めたことを指摘。さらに、「しんぶん赤旗」日曜版がスクープした、安倍事務所が桜を見る会の参加希望者に送った案内状も示して、「首相枠として、安倍事務所がとりまとめて後援会員を招待していた。そのことを首相が知らないはずがない」とたたきました。

さらに、田村氏は、安倍首相が予算委で「（後援会には）自治会等、あるいはPTA等で役員をされている方々もおられる」と功績・功労があった人々の範囲内と正当化しようとしたことについても追及。安倍事務所にツアー料金を払えば誰でも参加できる扱いだったことも示して、「これでは招待者について、どのような人物か確認しようがない」と指摘しました。

内閣官房の大西証史内閣審議官は「桜を見る会の前後に参加者が何をしていたかについては答える立場にない」と答弁。大塚幸寛・内閣府大臣官房長も、首相推薦枠について「重複がないかチェックした」というだけで、まともに答えられませんでした。

田村氏は、安倍首相の答弁について「重大な虚偽答弁だ」として、「首相本人をただしていくしかない」と強調しました。

しんぶん赤旗 2019年11月15日(金)

首相 「招待枠」知っていた 安倍首相「（その参加者は）ひまわり会？」 世耕元経産相「いえ、招待枠がなくなって」「桜を見る会」私物化 田村氏追及

日本共産党の田村智子議員は14日の参院内閣委員会で、首相主催の「桜を見る会」に自民党議員が後援会員を広く招待

していることを安倍晋三首相も認識していたことを示す動画が官邸ホームページに掲載されていることを明らかにしました。

田村氏が示したのは、首相官邸による記録映像。2017年の桜を見る会で、安倍首相が世耕弘成経済産業相（当時）に参加者について「ひまわり会？」と聞き、世耕氏が「今年は来ていない。（官房）副長官じゃなくなったから招待枠がなくなって」と答えています。「ひまわり」は世耕氏の地元・和歌山市の女性支持団体です。

田村氏は「安倍首相は、こういう（自民党議員に招待枠を設ける）仕組みを知っていたのではないかと」ただしました。内閣官房の大西証史内閣審議官は「枠という考え方があったわけではない」と答えました。

さらに田村氏は、桜を見る会に招待された安倍首相の後援会員を乗せたバスに、入園を許可する通行証が張られている写真を示し、「セキュリティーチェックもなく入園できる通行証を事前に内閣府が安倍後援会にわたしていたのか」と追及しました。大塚幸寛・内閣府大臣官房長は「入園を認めているバスには通行証を渡している」と認めました。



(写真)「桜を見る会」に直接乗り入れた安倍晋三後援会の貸し切りバス＝提供写真

田村氏は「功労・功績のあった方は、受付に行って手荷物検査のために長い時間並んで入園している。その時に、安倍首相後援会の方は、手荷物検査もなく入園し、飲食を楽しんで散歩している」と述べ、桜を見る会の趣旨をねじ曲げて私物化する安倍首相の責任を指摘。安倍首相自身が説明責任を果たすよう重ねて求めました。

異論80字 政府反映せず 議事録不記載、協議メール 東京新聞 2019年11月15日 朝刊

【経団連要望】経団連側が約80字の追加修正を依頼した第1次修正案

まず第一に、年齢にかかわらず、より多くの方が社会で活躍していける環境を整える、これは企業の側も大いにその責任があると思いますし、そういう意味で、年金の支給開始年齢の弾力化、あるいは厚生年金の適用拡大化というのは大いに賛成で、やるべきだと思っております。

ただ、在職老齢年金制度については、勤労意欲を減退させるとの議論があるのは承知しておりますけれども、それは、経営者の目から見ると、そんなことはないのではないかと、働く意欲のある人は結構いますし、財源の問題もあるので、慎重に検討した方がいいのではないかと思います。これが第1点です。

2番目は、やはり先ほどから出ております、給付と負担をめぐる制度の見直しという意味で申しますと、75歳になられる方の2割負担を継続する、あるいは外来受診時の定額の負担金を導入するというのは、やむを得ない話ではないかと認識しております。

政府の全世代型社会保障検討会議の議事録に中西宏明経団連会長の発言の一部が記載されなかった問題を巡り、政府は

十四日の参院厚生労働委員会の理事懇談会で、議事録をまとめる際に内閣官房と経団連が交わしたメールの一部を、提示した。経団連側は、中西氏が政府方針とは異なる意見を語った約八十字の発言内容を記すよう求めたが、内閣官房は応じなかった。

経団連側は修正案で、一定以上の収入がある働く高齢者の年金を減らす「在職老齢年金」の見直しについて、中西氏が発言した「勤労意欲を減退させるとの議論があるのは承知しておりますけれども、それは、経営者の目から見ると、そんなことはないのではないかと、働く意欲のある人は結構いますし」との約八十字の文言を、議事録案に加えるよう求めた。内閣官房は他の字句の修正には応じたが、この部分の追加には応じなかった。

政府がこの日示したメールは議事録案や修正案の文面のみで、担当者間の詳しいやりとりについては、明らかにしなかった。理事懇談会で野党側は「削除した理由が全く分からない」と問題視し、全てのメールの開示を重ねて求めた。

政府は九月二十日に行われた会議の議事録を十月四日に公表。中西氏の発言の不記載は今日八日に明らかにした。

これまでの政府の説明では、内閣官房の担当者が修正の意図を尋ねたところ、経団連側が「元のままでいい」と回答したという。（村上一樹）

【内閣官房案】依頼が反映がされていない内閣官房による第2次修正案

まず第一に、年齢にかかわらず、より多くの方が社会で活躍していける環境を整える、これは企業の側も大いにその責任があると思いますし、そういう意味で、年金の支給開始年齢の弾力化、あるいは厚生年金の適用拡大化というのは大いに賛成で、やるべきだと思っております。

ただ、在職老齢年金制度については、財源の問題もあるので、慎重に検討した方がいいのではないかと思います。これが第1点です。

2番目は、やはり先ほどから出ております、給付と負担をめぐる制度の見直しという意味で申しますと、75歳になられる方に同様の負担を継続する、あるいは外来受診時の負担金というのは、やむを得ない話ではないかと認識しております。

ただ、これもお話に出ましたけれども、低所得者の方々への影響というのは十分考慮する必要があるだろうと思っております。

大学共通テスト、記述式は中止を 「欠陥文科省自身が把握」 東京新聞 2019年11月15日 朝刊

二〇二〇年度から始まる大学入学共通テストで導入される国語の記述式問題で、文部科学省が記述式の成績について、受験生を門前払いする「二段階選抜」の判断材料に使わないよう国公立大学に要請することを検討していることが明らかになった。

会員制交流サイト（SNS）では、「そこまで問題を理解してるなら、記述式やめればいいのか？」など、記述式の見直しや中止を求める声飛び交っている。

政策として推し進めてきた文科省自身が、一部とはいえ受験に使わないよう大学側へ求める可能性がある状況に「記述式に欠陥があると自ら認めている」との指摘や、「採点ミスが後に発覚した際に追加合格で救済できるよう二次を受験させておきたいということだろう」といぶかしむ人も。

記述式の採点は民間業者に委託され、学生アルバイトなどが行う。採点者による判断のばらつきや、自己採点の難しさを教育関係者らが訴えてきた。

新テストは、現在の高校二年生が初めて受ける。通常なら受験の二年前には入試の形を確定させるのがルールだが、一年前の今になっても定まらない。「高二是混乱しているし、センター最終の高三は浪人できないと思っている」「受験生が振り回されてかわいそう」と不安が広がっている。(三輪喜人)

しんぶん赤旗 2019年11月15日(金)

香港での弾圧の即時中止を求める 日本共産党幹部会委員長志位和夫

日本共産党の志位和夫委員長は14日の記者会見で、香港で政府への抗議行動に対する香港警察による弾圧が強まっている問題で、「香港での弾圧の即時中止を求める」と題する声明を発表しました。同日午前中に在日中国大使館を通じて同政府に伝達したことを明らかにしました。

一、香港で政府への抗議行動に対する香港警察による弾圧が強まっている。11日には警官が至近距離からデモ参加者に実弾発砲し、1人が腹部を撃たれて重体となった。丸腰のデモ参加者への実弾発砲は、言語道断の野蛮な暴挙である。大学構内への警察による突入で、多数の負傷者と逮捕者が出た。警察は、香港立法会(議会)の「民主派」議員7人を逮捕した。香港警察とデモ参加者との衝突のなかで、デモ参加者から犠牲者が出ており、その真相解明が厳しく求められている。

わが党は、デモ参加者が暴力を厳しく自制し、平和的方法で意見を表明することが重要だと考える。しかし、殺傷性の高い銃器を使用して、抗議活動への弾圧を行うことは、絶対に容認できるものではない。

一、重大なことは、香港当局の弾圧強化が、中国の最高指導部の承認と指導のもとに行われていることである。

習近平中国共産党総書記・国家主席は4日、林鄭月娥・香港行政長官との会談で、抗議行動への抑圧的措置を続けている香港政府のこの間の対応を「十分評価する」としたうえで、「暴力と混乱を阻止し、秩序を回復することが依然、香港の当面の最も重要な任務である」と強調した。「一国二制度」の下で中国政府の指導下にある香港に対するこの言明が、何を意味しているかはあまりにも自明である。

実際、中国政府は、香港警察による11日の実弾発砲について、「警察側の強力な反撃にあうのは当然である」と全面的に擁護している(12日、外交部報道官)。

中国の政権系メディアは、香港警察に対し「何も恐れる必要はない」「国家の武装警察部隊と香港駐留部隊が、必要な時には、基本法の規定に基づきみなさんを直接増援できる」と言い放った(「環球時報」11日付社説)。武力による威嚇を公然とあおり立てているのである。

一、今日の香港における弾圧の根本的責任は、中国政府とその政権党にあることは、明らかである。その対応と行動は、民主主義と人権を何よりも尊重すべき社会主義とは全く無縁のものといわなければならない。

今日の世界において人権問題は国際問題であり、中国政府は、人権を擁護する国際的責任を負っている。

日本共産党は、中国指導部が、香港の抗議行動に対する弾圧を即時中止することを強く求める。「一国二制度」のもと、事態を平和的に解決する責任を果たすことを厳しく要求するものである。

香港、15歳少年ら2人重体 地元報道「夜間外出禁止検討」

東京新聞 2019年11月15日 朝刊

14日、香港理工大に通じる道に、バリケードを作る若者たち=共同



【香港=浅井正智】抗議活動が続く香港では十四日、交通妨害などの抗議活動が続いた。この影響を受けて幼稚園を含む全校が休校となり、教育局は今週中をすべて休校にすると発表した。十三日から十四日未明にかけてのデモ隊と警察の衝突では六十四人が負傷、うち二人が重体となった。日本人留学生が身の安全のために帰国する動きも出てきた。

政府トップの林鄭月娥(りんていげつが)行政長官は十三日深夜、政府幹部を招集し、今後の対策を協議した。一部香港メディアは十四日、政府が夜間外出禁止令を検討していると報じた。政府筋は「現段階ではない」と否定したが、抗議活動が過激化する中、実際に発令されるのではないかとの臆測が広がっている。

重体のうち十五歳の少年は、新界地区の警察署近くで抗議活動中に、警官が放った催涙弾が頭を直撃したとの疑いがある。もう一人は七十歳の男性で、新界地区でデモ隊が投げたレンガが頭に当たったとみられる。男性自身はデモ参加者ではなく巻き添えになった。

十二日に警官隊と学生が激しく衝突した香港中文大では、今学期の講義は取りやめとなったが、学生たちは十四日もバリケードを築いて大学を封鎖。キャンパス内では学生たちが火炎瓶を自前でつくっており、警察当局は同日の記者会見で「デモ隊は大学を兵器庫に変えた」と非難した。

香港にいる日本人留学生は数百人程度とみられ、香港の日本総領事館が香港中文大から空港へのシャトルバス乗り場まで車を手配するなど学生を支援した。

「トランプ氏 政敵捜査要求」 ウクライナ疑惑、公聴会で米高官証言

東京新聞 2019年11月15日 朝刊

【ワシントン=金杉貴雄】トランプ米大統領のウクライナ疑惑を巡り、弾劾調査を進めている米下院情報特別委員会が十三日、初の公聴会を開いた。証言した米政府高官は、トランプ氏側がウクライナに対し、軍事支援再開や両国の首脳会談実

現の条件として「バイデン前副大統領に関する捜査を行うと宣言することを求めていた」と明らかにした。

公聴会でテラー駐ウクライナ代理大使は、トランプ氏側が来年の大統領選での民主党有力候補である政敵バイデン氏への打撃を狙い、同氏の次男が役員を務めていたウクライナの会社への捜査を求め、ウクライナのゼレンスキー大統領に圧力をかけていた、との認識を示した。

さらに、トランプ氏の大口献金者として知られるソンドランド駐欧州連合（EU）代表部大使が七月、トランプ氏と電話した直後「トランプ氏はウクライナについてより、バイデン氏の捜査に関心がある」と語っていたと証言した。

公聴会ではケント国務副次官補も証言。トランプ氏の顧問弁護士ジュリアーニ氏がバイデン氏に関する政治的動機に基づいた捜査をウクライナにたきつけていたと指摘した。両氏はともに共和、民主両政権を通じて外交官として務めており、証言に党派性がないと強調した。

トランプ氏は十三日の記者会見で、弾劾調査を「魔女狩り」と批判。テラー氏が指摘した証言内容は「また聞き」で、七月のソンドランド氏への電話についても「聞いたことがない」と否定した。

公聴会は十五日にヨバノビッチ前駐ウクライナ大使、来週には政府高官ら八人の証言を予定。野党民主党は公開での証言で世論に訴え、年内に多数を握る下院での弾劾訴追を目指す。上院での弾劾裁判では三分の二以上で有罪、未満なら無罪となる。上院は共和党多数のため、有罪として罷免するには多数の造反が必要となる。

バイデン氏捜査が支援条件 ウクライナ疑惑公聴会 米代理大使ら証言

東京新聞 2019年11月14日 夕刊

13日、米ワシントンで開かれた公聴会で、証言するテラー駐ウクライナ代理大使（右）とケント国務副次官補＝AP

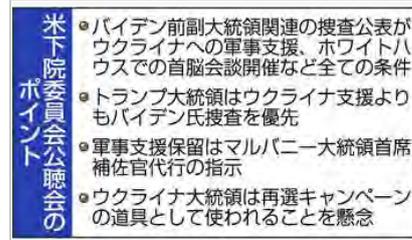


【ワシントン＝金杉貴雄】トランプ米大統領のウクライナ疑惑で、米下院情報特別委員会は十三日、弾劾調査で初の公聴会を開催した。証言したテラー駐ウクライナ代理大使は、ウクライナへの軍事支援再開や両国の首脳会談について、ゼレンスキー大統領がバイデン前米副大統領に関する捜査を行うと宣言することが条件だったとの認識を語った。

テラー氏は、ソンドランド駐欧州連合（EU）代表部大使が七月二十六日にトランプ氏と電話した直後、テラー氏のスタッフに「トランプ氏はウクライナについてより（トランプ

氏の政敵で来年の米大統領選での民主党有力候補である）バイデン氏の捜査に関心がある」と語っていたと証言。九月一日にはテラー氏本人に「トランプ氏はゼレンスキー氏に対し（バイデン氏と次男に関する）捜査を公に宣言することを望んでいる」と説明したという。ソンドランド氏は、トランプ氏の大口献金者として知られている。

このほかテラー氏は、ゼレンスキー氏が「（トランプ氏）再選の道具として使われたいと考えている」とウクライナ側から伝えられていたと説明。ウクライナへの軍事支援停止は行政管理予算局（OMB）局長を兼務するマルバニー大統領首席補佐官代行の指示と聞いたとも明かした。



トランプ氏は十三日の記者会見で、テラー氏の証言について「いかなる状況でも『見返り』と言っていないことは真実だ」と主張し、弾劾調査を「魔女狩り」と批判。七月二十六日のソンドランド氏への電話についても「そのような会話は聞いたことがない」と否定した。

十三日の公聴会ではケント国務副次官補も証言。トランプ氏の顧問弁護士ジュリアーニ氏が暗躍し、バイデン氏に関する政治的動機に基づいた捜査をウクライナにたきつけていたと非難した。

公聴会は十五日にヨバノビッチ前駐ウクライナ大使、来週には政府高官ら八人の証言を予定している。弾劾調査が非公開での証言から公開での場に移り、民主党はテレビ中継などを通じ世論に訴え、年内に多数を握る下院での弾劾訴追を目指す。

上院での弾劾裁判では三分の二以上で有罪、未満なら無罪となるが、上院は共和党多数で有罪とするには多数の造反が必要となる。

＜ウクライナ疑惑＞ ロシアとの紛争を抱えるウクライナに対し、トランプ米大統領が軍事支援の継続や首脳会談開催の見返りに、来年11月の大統領選の野党民主党有力候補バイデン前副大統領に関するスキャンダル探しをするよう圧力をかけた疑惑。民主党は9月下旬、多数派を握る下院の委員会で弾劾訴追調査を始めると表明。10月末に下院本会議で調査開始を正式に決議した。（共同）

しんぶん赤旗 2019年11月15日（金）

トランプ氏弾劾で公聴会 外交私物化明らかに 米政府高官が告発

【ワシントン＝遠藤誠二】米下院情報特別委員会は13日、トランプ大統領のウクライナ疑惑をめぐる弾劾調査で初の公開公聴会を開催しました。テラー駐ウクライナ臨時代理大使、ケント国務副次官補が、バイデン前副大統領と次男の不正

疑惑調査をめぐりトランプ氏がウクライナに圧力をかけていたと証言。トランプ氏らによって外交が私物化されていた実態が明らかになりました。

公開公聴会は全米でテレビ中継されました。テイラー氏は、トランプ政権にはウクライナをめぐり、「通常」と「極めて異例」の二つのチャンネルがあると主張しました。

テイラー氏によると、トランプ氏がウクライナのゼレンスキー大統領と電話会談をした翌日の7月26日、ウクライナ政府と協議したソンドランド駐欧州連合(EU)大使がトランプ氏に電話でウクライナ政府の反応を報告。「トランプ氏はウクライナ情勢よりもバイデン氏の調査を気にかけていた」といいます。テイラー氏のスタッフがその場に居合わせ、ソンドランド氏から伝え聞きました。

ウクライナでのバイデン氏の調査をめぐっては、トランプ氏の私的顧問弁護士であるジュリアーニ元ニューヨーク市長が外交チャンネルを逸脱して活動。ケント氏は証言で、バイデン氏の調査の件で対立したヨバノビッチ駐ウクライナ大使(当時)の追い落としをはかるためジュリアーニ氏が「うそのキャンペーン」を行ったと述べました。

テイラー、ケント両氏は証言で、バイデン氏と次男にかかわる調査を条件に、トランプ・ゼレンスキー首脳会談の実施や凍結された軍事援助の解除が約束されていたとの認識を改めて表明。テイラー氏は、軍事援助と引き換えに調査を要求することは「クレイジー(正気でない)」と思った。この考えは今も同じだと断じました。

下院情報特別委員会は15日に、ヨバノビッチ前駐ウクライナ大使、来週にはソンドランド氏らが証言する公開公聴会を相次いで開きます。下院で多数を握る民主党は、クリスマス前までの弾劾訴追を目指す構えです。

一世一代 大嘗宮の儀

東京新聞 2019年11月15日 朝刊

御祭服を着て大嘗宮の悠紀殿に進まれる天皇陛下=14日午後6時34分、皇居・東御苑で(代表撮影)



天皇陛下の即位に伴う最重要祭祀(さいし)「大嘗祭(だいじょうさい)」の中心儀式「大嘗宮(だいじょうきゅう)の儀」が十四日夜から、皇居・東御苑に造営された大嘗宮で行われた。各界代表ら五百十人が参列、千三百年以上の歴史があるという神秘的な儀式を見守った。政府は大嘗祭の宗教性を認めつつ、「天皇の一世一代の伝統儀式で公的性格を持つ」として二

十四億円を超える国費を支出する。憲法の政教分離原則の観点から、法学者や宗教研究者らの意見は、賛否が分かれる。

大嘗宮の儀は、悠紀殿(ゆきでん)と主基殿(すきでん)を主祭場とし、十四日夜の「悠紀殿供饌(きょうせん)の儀」と十五日未明の「主基殿供饌の儀」の二部構成。

悠紀殿供饌の儀は午後六時半ごろから始まり、白い束帯の御祭服(ごさいふく)を着た陛下は、三種の神器の剣と璽(じ)(勾玉(まがたま))を捧(ささ)げ持った侍従を伴って、悠紀殿に入られた。さらに奥の内陣と呼ぶ部屋に入室して約二時間半、神事を行った。

宮内庁によると、陛下は内陣で、皇祖神とされる天照大神(あまてらすおおみかみ)を祀(まつ)る伊勢神宮がある南西方向に設けた「神座」に向かい、調理された米とアワ、白酒(しろき)、黒酒(くろき)などの神饌(しんせん)を供える。国の安寧と五穀豊穡(ごこくほうじょう)を祈る「お告(つ)げ文(ぶみ)」を読み上げ、自らも神饌を口にする「直会(なおらい)」を行う。

皇后さまは白い十二単(じゅうにひとえ)姿で専用の建物で拝礼して退出。皇嗣秋篠宮さまら皇族方も別の建物で拝礼した。安倍晋三首相ら三権の長と閣僚、都道府県知事ら参列者は、テントの幄舎(あくしゃ)で午後九時半ごろの儀式終了まで着座。休憩後、十五日午前零時半から同三時半ごろまで主基殿供饌の儀が行われる。(編集委員・阿部博行)

令和の大嘗宮 儀式粛々

東京新聞 2019年11月15日 朝刊

皇居・東御苑の「大嘗宮」=14日



皇居・東御苑の大嘗宮(だいじょうきゅう)の回廊を松明(たいまつ)の薄明かりが照らす。白い束帯を着た天皇陛下の姿が浮かび、静寂の中、脂燭(ししょく)の明かりに導かれ、ゆっくりと歩みを進めた。十四日夜に行われた大嘗祭(だいじょうさい)の中心儀式。晩秋の薪能を思わせる光景に参列者は目を凝らした。

ゆらゆら揺れる松明の明かりが、皮付き丸太を使った黒木造りの殿舎(でんしゃ)を浮かび上がらせる。一帯が夕闇に包まれると、陛下が脂燭を持つ侍従の先導で、長い回廊を渡り始めた。

陛下の頭上に別の侍従が鳳凰(ほうおう)の飾りがある菅笠(すげがさ)を差し掛ける。三種の神器の剣と璽(じ)(勾玉(まがたま))を持つ侍従も付き添い、一団となって主祭場の悠紀殿へ向かう。

午後六時半すぎ、陛下が悠紀殿に入った。神と対座する「供

饌(きょうせん)の儀」が始まった。まもなく、冷たく張りつめた空気に掌典職(しょうてんしよく)の男性が発する「オーシー」という掛け声が響いた。神楽歌が流れ、殿舎が厳粛な雰囲気と包まれると、陛下は内陣と呼ばれる奥の部屋で神事の席に着いたとみられる。

内陣の様子は非公開とされるが、神道学者によると、過去の天皇は、采女(うねめ)(女官)が運び入れた神饌(しんせん)を竹はしで柏(かしわ)の小皿に取り分け、神前に供える。その所作は一時間二十分ほど続く。

午後九時十五分、陛下は悠紀殿を退出し、儀式を終えた。この間、皇后さまは午後六時四十分ごろ、平安貴族の髪形の大垂髪(おすべらかし)に白い十二単(じゅうにひとえ)をまとい、女性皇族や女官に付き添われて、帳殿(ちょうでん)と呼ばれる建物に入った。拝礼を終えて午後七時前に退出した。

夜になると冷え込み、招待者の多くが防寒着姿で儀式終了を待ち続けた。(阿部博行、比護正史)

